

Injury Alert (傷害速報)類似事例

抱っこ紐からの墜落による頭部外傷 (No.41 抱っこ紐からの転落による頭部外傷の類似事例 11)

事例	基本情報	年齢：0歳 3か月 性別：女児 体重：5.32kg 身長：56.0cm
	家族構成	父 37歳、母 34歳、姉 3歳、本児の4人家族
	発達・既往歴	なし
臨床診断名		頭頂骨骨折、硬膜外血腫
医療費		入院 159,340 円 外来 18,410 円
原因対象	対象名称	抱っこ紐
	入手経路 使用状況	4年前にプレゼントとして新品を貰った。週1回程度の使用頻度で、ベビーカーと半々の頻度で使用していた。
発生状況	発生場所	自宅のマンションエントランス、エレベーター前
	周囲の人 周囲の環境	当日はお宮参りに行く予定で、母親は和装した上に抱っこひもを使用していた。
	発生年月日	2021年1月X日(日) 午前9時30分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	母親は背中の抱っこ紐ベルトを自分では付けられず、父親に装着してもらったが、両サイドにあるベルトはロックされていなかった。午前9時30分にマンションエントランスのエレベーターに駆け寄った際に、抱っこ紐の横にできた隙間からすり抜ける様に、本児が墜落した。強く啼泣したが、嘔吐や意識障害は呈しておらず、近くのクリニックAを受診し、医療機関Bを紹介された。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰		午前11時頃に医療機関Bを受診した。受診時に意識障害なく、全身状態は安定していた。頭部CT検査で左頭頂骨線状骨折、頭部皮下血腫、および、硬膜外血腫が認められ、経過観察のために入院した。入院後は症状の増悪なく、翌日の頭部CT検査でも硬膜下血腫の拡大を認めず、入院翌日に退院した。受傷から3か月の時点で合併症、後遺症を認めずに経過している。



図 抱っこ紐を装着した際の正面・側面図。

両サイドに安全ベルトがある（矢印）。ロックされていないと両サイドに大きな隙間が生じる（右図）。

Injury Alert (傷害速報)類似事例

ヒップシートからの墜落による頭部外傷 (No.41 抱っこ紐からの転落による頭部外傷の類似事例 12)

事例	基本情報	年齢：0歳 10か月 性別：男児 体重：10.0kg 身長：73.5cm
	家族構成	父(36歳)、母(36歳)、兄(3歳)の4人家族
	発達・既往歴	なし
臨床診断名		後頭骨骨折、右後頭部皮下血腫
医療費		入院 201,360 円 外来 21,910 円
原因対象	対象名称	ヒップシートと専用抱っこ紐(ヒップシートと連結して使用できる両肩タイプ)
	入手経路 使用状況	3か月前にこども用品店で新品を購入した。 母が毎日使用していたが、安全ベルトはしたことがなかった。
発生状況	発生場所	自宅マンションのロビー
	周囲の人 周囲の環境	発生時は家族4人が一緒にいた。母親は普段から使用しているヒップシートと専用抱っこ紐で本児を前向きに抱っこしていた。午後3時頃、自宅マンションのロビーで兄が粗相したため、母親は本児を抱っこしたまま床を掃除していた。
	発生年月日	2021年2月X日(月) 午後3時
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	午後3時頃、母が前屈みになり、右腕を伸ばして床を掃除している際に、本児が抱っこ紐の左横からすり抜けるように落下した。専用抱っこ紐に付属している安全ベルトは装着していなかった(児の腰に1周させて止める様式のベルト)。傍で目撃した父親によると、本児は1mほどの高さから落下し、コンクリートの床に後頭部を打撲し、すぐに啼泣した。午後4時頃に医療機関へ受診した。
医療機関受診時以降の治療経過 転帰		受診時に意識障害なく全身状態は安定していた。後頭部に3cm大の皮下血腫を認められ、頭部CT検査を施行された。右後頭骨線状骨折、および右後頭部皮下血腫が認められたため、入院した。入院後に症状の増悪はなく、翌日の頭部CT再検査でも変化を認められずに入院翌日に退院した。受傷から2か月後の時点で合併症、後遺症はなく経過している。



図 ヒップシートと連結した両肩タイプ専用抱っこ紐を使用
側面の開口部が大きい構造になっている（点線部分）。安全ベルトは抱っこ紐に付いており、抱っこ紐内側になるため、本図では止めている所は確認できない。